

## 1 対象

小学校全学年、中学生

## 2 ねらい

北朝鮮当局（※）による拉致問題は、日本の主権と国民の生命に関わる問題であり、早期に解決が望まれる国民的課題であるが、同時に拉致被害者やその家族にとっては重大な人権侵害そのものであり、日本が現在抱えている人権課題の1つである。アニメ「めぐみ」の視聴により児童・生徒の拉致問題に対する関心を高め、風化させないために自分たちができることについて考えさせたい。

## 3 準備するもの

○ワークシート

○アニメ「めぐみ」

※アニメ「めぐみ」DVD（25分）は、各小・中学校に配布されています。

法務省のホームページでも視聴が可能です。

<https://www.rachi.go.jp/jp/megumi/gaiyou.html>

アニメ「めぐみ」には、15分の短縮版もあります。

<https://www.rachi.go.jp/jp/archives/2020/megumitanshuku.html>

## 4 解説

平成18年6月に「拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律」が制定されるとともに、平成23年4月には閣議決定により国の「人権教育・啓発に関する基本計画」（以下「基本計画」という。）における人権課題として、新たに「北朝鮮当局による拉致問題等」が加えられた。「基本計画」では、「拉致問題の解決には、幅広い国民各層及び国際社会の理解と支持が不可欠であり、その関心と認識を深めることが求められている。」としており、「学校教育においては、児童生徒の発達段階等に応じて、拉致問題等に対する理解を深めるための取組を推進する」とこととされている。

その一方で、本県には朝鮮半島につながりのある児童・生徒が在籍していることから、拉致問題を学習することによりこれらの児童・生徒に対する差別、偏見などが生じないように十分に配慮することが必要である。

児童・生徒一人ひとりを大切にするとともに、拉致問題に関心をもち続け、この問題が今後とも風化しないように、次のことに留意しながら指導する。

○拉致問題は北朝鮮当局による人権侵害行為ではあるが、北朝鮮当局に対する非難に主眼を置くのではなく、人権課題の1つとしてこの問題を捉えられるようにする。

○拉致被害者やその家族の心の痛みや叫びなどを中心に取り上げ、そのつらい気持ちに共感する心情を育てるようにする。また、拉致問題を学習することにより育まれた共感する心は、他の人権課題について考える際にも大切であるという点に気づくようにし、今後の人権学習に生かす。

○拉致問題は、北朝鮮当局以外の北朝鮮の人々をはじめとした朝鮮半島の人々や日本で生活する朝鮮半島につながりのある人々に責任を帰する問題ではないことをおさえる。また、この点をふまえて、差別や偏見についての学習を深めることも考えられる。

拉致問題に関する他の映像作品として、「『ただいま』～の声を聞くために～」がある。拉致問題を授業で扱う際は、こうした映像作品の活用についても検討するとよい。

また、本項目の最後には、[資料 拉致問題Q&A](#)を掲載してあるので、参照するとよい。

（※）日本は、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）を国家として認めていないため、北朝鮮政府を「北朝鮮当局」と表現している。

## 5 進め方（展開例）45分（中学校50分）

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 5分	<p>◆学習の確認（5分）</p> <p>①授業の流れの説明を聞く。</p> <p>②家族が突然いなくなったらどう思うかを想像して書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の流れを簡単に説明する。〔P4「学習を進めるにあたって」の内容〕を伝える。</li> <li>具体的な場面は生徒それぞれが想像したことでよいことを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> </ul>
展開 35分	<p>◆アクティビティ（35分）</p> <p>「ある日突然、大切な人がいなくなってしまったら」</p> <p>①アニメ「めぐみ」を視聴し、北朝鮮当局による日本人拉致問題及び、拉致被害者の家族が日本にいることを知る。</p> <p>②拉致被害者やその家族の気持ちを想像して書く。</p> <p>③グループで意見交換をする。</p> <p>④いくつかのグループが意見交換した内容を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アニメ「めぐみ」を視聴することで、拉致があることを理解し、拉致被害者及びその家族がどのように思っているのかを想像するよう促す。</li> <li>自分が考えたことを伝えるとともに、他の人たちの考えを聞くことで、その思いを深く理解できるようにする。</li> <li>北朝鮮当局に対する非難に主眼を置くのではなく、家族の心の痛みやつらい気持ちに共感できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アニメ「めぐみ」</li> </ul>
まとめ 5分 (中学校10分)	<p>◆まとめ（5～10分）</p> <p>①拉致問題を風化させないために、自分たちにどのようなことができるかを考えて書く。</p> <p>②まとめを聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業をとおして拉致問題を知り、被害者家族の心情に寄り添い、思いに共感しようとしたことをふりかえりながら、自分にできることを考えるよう促す。</li> <li>児童・生徒から出された意見や記述をもとにまとめる。</li> </ul>	
<p>◆<b>拉致問題について、一人ひとりが問題を理解するとともに関心を高め、風化させないことが重要であることを伝える。</b></p>			

### <引用文献>

「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]実践編」文部科学省（平成20年3月）  
 政府 拉致問題対策本部HP  
 啓発リーフレット「北朝鮮による日本人拉致問題- 一日も早い帰国実現に向けて! -」より

### <参考資料>

政府拉致問題対策本部ウェブサイト

「人権学習ワークシート集Ⅴ一人権教育実践事例・指導の手引き（高校編 第14集 一）」（平成25年2月）

「人権学習ワークシート集Ⅵ一人権教育実践事例・指導の手引き（高校編 第15集 一）」（平成28年2月）

「人権学習のための参加体験型学習プログラム集（第2集）」神奈川県教育委員会（平成27年2月）

ある日突然、大切な人がいなくなったら

( )年( )組( )番 名前

- 1 あなたの大切な家族の1人が帰宅するはずの時間に帰宅しなかったら、あなたはどのように思うでしょうか。

- 2 アニメ「めぐみ」を視聴し、拉致被害者やその家族の気持ちを考えてみましょう。

- 3 拉致問題を風化させないために私たちにどのようなことができるかを考えてみましょう。

## Q1 拉致問題って何ですか？

A1 1970年代から1980年代にかけて、北朝鮮が、多くの日本人をその意思に反して北朝鮮に連れ去りました（拉致＝本人が望まないのに連れ去ること）。

北朝鮮は、長年にわたり日本人拉致を否定していましたが、2002年9月、金正日国防委員長（当時）は、小泉総理（当時）との会談において、初めて日本人拉致を認め、謝罪しました。しかし、拉致された日本人のうち、日本に帰国できたのは5名にとどまっています。

5名以外の拉致被害者についても、政府は、その速やかな帰国を、北朝鮮に対して強く要求しています。

## Q2 北朝鮮は拉致問題を「解決済み」と主張していますが、それは嘘ですか？

A2 これまで北朝鮮は、拉致被害者のうち生存している者は全て日本に帰国させた、残りの拉致被害者は「死亡」又は「入境せず」とし、したがって拉致問題は「解決」したと主張してきました。

しかし、北朝鮮が「死亡」と説明する根拠は極めて不自然で、全く納得のいくものではありませんでした。

2014年5月の日朝政府間協議の合意では、北朝鮮側は、「従来の立場はあるものの」全ての日本人に関する調査を包括的かつ全面的に実施し、最終的に、拉致問題をはじめとする日本人に関する全ての問題を解決する意思を示したところであり、政府としては、引き続き、北朝鮮に対してストックホルム合意の履行を求めつつ、全ての拉致被害者の帰国に向けて全力を尽くしていきます。

## Q3 日本には、拉致被害者は何人いるのですか？

A3 政府が、北朝鮮による拉致被害者として認定したのは17名です。このうち5名は、既に帰国を果たしましたが、残りの12名については帰国できていないままです。

また、朝鮮籍の幼児2名が日本国内で拉致されたことも明らかになっています。このほかにも、拉致の可能性を排除できない方々も多くおられ（※）、政府は、認定の有無にかかわらず全ての拉致被害者を一刻も早く帰国させるように、強く求めています。

（※）拉致の可能性を排除できない者として883名（2018年10月1日現在）に関して国内外からの情報収集や捜査・調査を続けています。

## Q4 どうなれば、拉致問題が解決したと言えるのですか？

A4 拉致問題の解決には、以下の三つを実現する必要があります。

- ① 全ての拉致被害者の安全を確保し、すぐに帰国させること。
- ② 北朝鮮が、拉致被害の真相を明らかにすること。
- ③ 北朝鮮が、拉致を実行した者を日本に引き渡すこと。

<出典 外務省ホームページ>



政府拉致問題啓発ポスター